

2020年8月1日  
北近畿経済新聞(8面)に掲載されました

綾部の日東精工

事業の新たな柱に

医療機器部門が始動

工業用ねじなどを製造する日東精工(株)(本社・綾部市井倉町、材木正己社長)は、事業の新たな柱に位置付ける「医療機器」の分野で製造・販売の態勢を整えた。本社内に事業

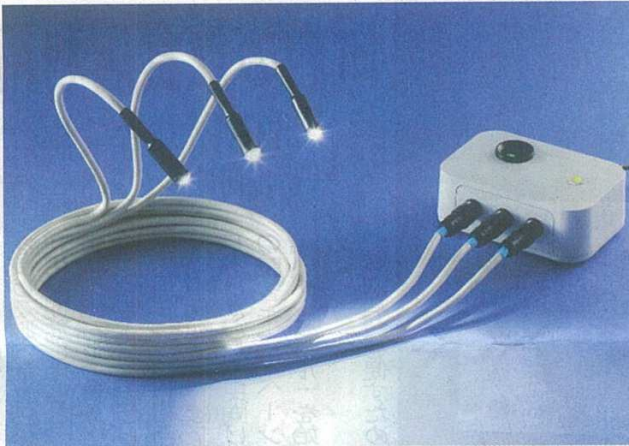
拠点を設けて必要な許認可を取得し、7月29日に第1弾となる医療用照明器を発売。成長の鍵を握る事業が本格的に動き始めた。

同社は従来、主力のねじは「フラスナー」、産業用ロボットや自動車用締め機は「産機」、流量計や地盤調査機は「制御システム」の3事業部で、それぞれの製品を展開してきた。2019〜22年の中期計画では事業領域の拡充を重要戦略に掲げ、

新たな柱となる事業の育成に取り組んでいく。

今後の成長が期待できる分野として、医療機器を第4の事業に据えた。昨年10月に準備室を設置し、今年1月に専用の工場を本社に開設するとともに製造と販売に関する許認可

を取得。4月に準備室を「メディカル新規事業部」とし、事業展開の準備を進めてきた。初めて商品化したのは、手術や診療に用い



日東精工の医療機器で第1弾商品となる「フリーレッド」 同社提供

る医療用照明器「フリーレッド」。先端が光るケーブル状のライトユニット(1回だけの使い捨て)を電源ボックスにつないで使う。自然光に近い光色で、高輝度の光を発生させるのが特長。1台の電源ボックスで3本まで接続できる。

参考価格(税抜き)はライトユニットが1本1万2千円、電源ボックスが1台5万2千円。初年度の販売はライトユニットで6千本、電源ボックスで500台を見込む。

第2弾の製品を市場に投入する時期は未定だが、今回の製品で得られる経験や知見を生かし、開発に取り組む方針。更に医療機器は品質管理や製造技術で高い水準が求められるため、相乗効果により既存事業のレベルアップも狙う。

材木社長(69)は各事業で培った技術を融合させていく考えで、「世の中に価値ある製品を提供していきたい」と将来を見据える。